

**江東未来会議**  
**第1分科会（子育て・教育分野）**  
**第4回 議事概要**

日時：平成19年11月28日（水）19:00～21:15

場所：文化センター2階 旧区政PRコーナー

参加人数：16人

1. 開会

2. 事務局からの連絡事項

- ・配布資料の確認

3. 本日のワークショップの進め方について

（1）前回の振り返り

○高重コーディネーター

- ・前回は、現状の問題点や課題についてご議論いただいた。それらを取りまとめたものが本日配布した統合版である。前回、ご検討いただいたものを分類したものであり、一番上段は第2回の未来会議において、ご提案いただいた将来像のまとめを再掲したものである。
- ・問題・現状を認識して、解決の方向性、どんなことをしていってよいかという課題をだしていただいた。本日は、統合版を拡大したものがあるので、ここに不足している視点など付箋に書いて貼りこんでいただき、さらに、将来像についてグループとしての意見を取りまとめてほしい。
- ・統合版は、子育て、教育各々についてと、地域社会の中での連携によって教育や子育てをしていこうという視点でのとりまとめと、子どもの居場所について取りまとめたものとなっている。
- ・本日は、ご自身の関心分野によって議論をしていただく。分野は、子育て、教育、子どもの居場所を含めて地域社会についての3つに分けたらどうかと考えている。もちろん重なる部分もあるので、どこに重点をおくのかということでも分野を決めてほしい。
- ・まず、この3つの分野でよいか。

○参加者

- ・よいのではないか

【3グループに移動】

（2）本日の進め方について

○高重コーディネーター

- ・それではこの3つに分けてご議論いただくこととする。また、グループは固定ではなく、次回以降に他の分野に移ることもよいこととする。

- ・各グループで、話を進行する人と、議論のメモをとっていただく人を決めてグループ討議をしていただきたい。
- ・本日は将来像を文章化することを念頭にご議論いただきたい。今、記載の将来像は、将来像より若干具体的なイメージとなっているので、10年後を見据えた大きなイメージで将来像を描いてほしい。

## 4. ワークショップ

### (1) 作業

前回議論を整理した、「問題・現状の認識」、「解決の方向性」、「何をすべきか」各々を精査するとともに、子育て・教育分野の将来像について討議した。

【グループ毎に作業】

### (2) 発表

【作業結果】詳細は別紙「第4回江東未来会議 子育て・教育分野」参照

○Aグループ（子育てについて）

- ・保育園や学童保育施設が不足しており、充実が必要であるとの意見があった。
- ・子育てが楽しくなるようなシステムが必要であり、保健所の助産師などが父親や母親の心によりそのような訪問をすること、鬱などに対する育児支援など、産前産後の訪問型子育て支援によるケアが必要との意見があった。
- ・子育てに地域が関わる仕組みをつくることという意見が挙げられた。
- ・子どものことについて、例えば保育園についての窓口や育児関係のことは他の窓口となっているが、子どものことが全て一つの窓口で解決できるよう組織も一つにすることが大切ではないかという意見があった。
- ・年代を超えた交流については、子ども達とお年寄りなどが日常的な交流ができるような施設が必要であると考えた。
- ・様々な施設の運営については、区民参加の運営協議会を設置すること、という意見が挙げられた。
- ・今ある子育て関係施設のさらなる充実、また、児童館の充実やプレイパークの設置という意見もあった。
- ・将来像としては、子どもが楽しくのびのび成長でき、親も孤立しないで、楽しく子育てができ、地域も子育てに関わるのが望ましいという意見になった。

○高重コーディネーター

- ・今の発表に対して質問や意見があったら出してほしい。

○参加者

- ・子育てのNPOが江東区内にもあると思うがどのくらいあるのか。

○Aグループ参加者

- ・NPOもあるが、ボランティア団体として活動している人達がたくさんいて、それらについ

ては行政として把握できていないのではないかと思います。小さなボランティア団体ができては消えていく。ただし一時的でいけないということではなく、必要な時に作られ、有効に機能している。行政が音頭をとって協議会のようなものを作って育ててほしいと考えている。

○参加者

・ボランティア情報などは、子育て家庭が見られるよう冊子などになっていることが必要だと思う。

○参加者

・支援センターの充実という点については新たに整備するということか。

○Aグループ参加者

・現在支援センターは5箇所設置されている。いずれも数十人が入れる程度の施設で近隣の人は毎日通うことができるが、中にはバスなどで行く親子もいるようだ。

○参加者

・施設が足りないということか。

○Aグループ参加者

・児童館や文化センター、町内会館などを開放して、小さなものを各地に設置し、地域で育てていくということを含めて充実と考えている。

○Bグループ（子育て・教育に関する地域のあり方について）

・農園の活用という意見が最初にあった。第三大島小学校跡地を使って農園を作るという意見である。現在、区の農園が2箇所設置されているが、倍率が9倍と高く簡単に利用できない。その一方で、農地を借りても作物を作れない人もいるので、それら十分に利用されていない農園をつかって交流をはかったり、またその周辺にプレイパークを整備していくという意見が挙げられた。

・次が、地域のコミュニティ拠点としての集会場についてであるが、使い方を知らない人が多いので、使い方の明確化、周知することが必要という意見があった。

・交流場所について、場所はあるてもそういう場所を知らない人が多いと思われることから、交流場所があることを知ってもらう、入り口が必要という意見があった。

・地域企業の協力を得て、子どもの職業体験をさせれば子どもの視野が広がったり、コミュニケーションの能力も向上するのではないかと考えた。

・区民農園や企業を活用して、働く体験や農業を体験し、そのことに対する対価を得ることで楽しみをつくるということも良いのではないかと意見があった。

・これらを踏まえて、将来像としては、地域社会を通して世代を超えて分け隔てなく交流していくことが、平成30年に向けて必要だ、という意見となった。

○高重コーディネーター

・今の発表に対して質問や意見があったらどうぞ。

○参加者

・地域のあり方として一つ検討していただきたいことがある。道というと自動車道路である

がこれを人の道にしていこうとすることで、住宅環境もよくなるであろうし、商店街も変わり、町が変わるのではないかと考えている。行政がやるということだけでなく、働きかけていくことが必要だと思う。それらが整備されていけば住宅環境が良くなっていくのではないかとと思う。いずれにしても自動車道路と人の道路を区分けしていくことが必要ではないか。

#### ○Cグループ（教育について）

- ・将来像として3項目に集約した。1つ目は、学校と地域・親をつなぐシステムづくり、2つ目は、学校教育の充実、3つ目は、子どもが体験する機会の充実（シルバー人材センターの活用）である。
- ・学校と地域・親をつなぐシステムについては、親のニーズが多様化している中で、親と学校を結ぶコーディネーターとしての人材を提供することが必要ではないかという意見である。
- ・学校教育については、公教育で十分という学校教育であるべきということである。塾がいらないような公教育にしていこうとすることが必要であり、そのために親は親としての責任を果たすことが必要という意見があった。また情操教育や人間性を養うためには子どもの体験機会の充実を図ることが必要と考えた。

#### ○高重コーディネーター

- ・今の発表に対して質問や意見があったらどうぞ。

#### ○参加者

- ・コーディネーターについて十分理解できなかったので説明してほしい。

#### ○Cグループ参加者

- ・学校への要望が多すぎて、本来の教育ができなくなっている。フィンランドの事例では、心理士や学校教育サポートチームなど先生の教育をサポートするとともに親のサポートもしており、こうした仕組みが必要だと思う。
- ・国の事情等は異なるが、今日の議論だけでは不足だった点もあると思われるので、このような取り組みを入れたらどうかということをご提案していただきたいと思う。

#### ○Cグループ参加者

- ・地域の中にはいろいろな知識を持った人がいるが学校はこうした人材を生かしていないのではないかと。そうした地域知を学校教育に生かすために、コーディネーターが必要と考える。

#### ○Cグループ参加者

- ・シルバー人材センターには、墨絵の指導ができる人はいないかなどの要望が来るが、こうした色々な人材を学校教育に積極的に生かしていくためにはコーディネーターが必要ではないかと考えた。

## 5. 次回の進め方について

#### ○高重コーディネーター

- ・次回は本日の議論を踏まえて、具体的な事業アイデアを検討し、それらについて、区民が

できること、行政にやってもらいたいことなどの役割分担について検討していく。

## 6. スケジュールについて

### <次回以降のスケジュール>

- ・第6回 1月31日（木）19:00～21:00 （場所）江東区役所庁舎7階第72会議室
- ・第7回 2月21日（木）もしくは2月22日（金）（時間はいずれも19:00～21:00）

将来像

- 子どもが楽しく、のびのび成長でき、親も孤立しないで楽しく子育てができ、地域全体で子育てをするシステムがある江東区
- 孤立した子育てのない楽しく子育てができる地域社会を行政主導でつくる

- 社会性や協調性、他者への思いやりの心のある伸び伸び・元気な子ども達
- 親としての自覚をもち、社会を生きる人として子を導く家庭教育
- 家族が互いを尊重し、協力しあえる安心・やすらぎ・笑顔のある家庭
- 不安・悩み・つらさをうち明け、分かち合い、癒される仕組みをもつ社会

問題・現状の認識

子育てに関する親の意識の低さ、家庭の子育て力の問題がある

- 親の認識不足の改善  
育児教育は親の責任
- 家庭の機能不全  
→家庭支援
- 給食費を払わない→社会規範が崩壊
- 家庭の子育て力の低下  
←社会の変化
- 子ども達は何を期待しているか。子ども達のことをもっとよく知るために何をしたらよいか
- 親が核家族化等で子育てを学ぶ機会がない
- 7歳までに座って話を聞くしつけができない
- 両親で働くどうしてもおろそかになる子育て環境

保育園、学童保育とも施設が不足している

- 日本一の保育園待機児童数→認可保育園の大幅増設、区立の保育園新設  
→「認証」「認定子ども園」は保育の質の低下を招く
- 100人を超す過密、過大な学童保育  
→適切な定員での学童保育増設  
→放課後子どもクラブではなく学童保育
- 子ども、親を混乱に陥れている保育園民営化  
→実際の検証を十分にやり、子ども達のためになっていないのであれば再検討する
- 見積り余剰  
現在の待機児童は参考にならない
- 幼稚園の入所困難  
→区立にも3年保育を作る。選択肢の拡大
- 保育園などの数が少ない→数の増加

解決の方向性

家庭が子育ての力をつけていくための家族のあり方を見直す

- 家庭が子どもの居場所として良いものであるために、親の働き方や社会の労働の仕方などにもつとどりがけないといけない。少なくとも子どもの話が聞ける家庭になるように

土日開庁  
家計維持者(働いている人)の育児・教育への参加

子育てを学ぶ機会を設ける

- 子育てを学ぶ支援の機会の増加

地域が子育てに関わるしくみをつくる

- 地域社会が子育て、教育にどう関わっていくか、システム・組織づくりが必要
- 地域が子育てに関わるしくみをつくるシステム・組織づくりが必要

助け合いができる子育て社会

- 行政として子育て支援ボランティアを育て、家庭訪問により子育てで不安を助ける

地域の実態に合わせて、保育施設の量を確保し、質を高める

- (質が整った) 保育施設の充実
- 重点形成(地域) 南北地域の事情に合わせた配置

- 子育て支援  
・保健所⇒訪問指導含め  
・子育て支援センター(みずべ)の充実(質・量共に)

何をすべきか

労働時間や休暇制度等子育てしやすい社会システムをつくる

- 子育てがしやすい社会環境づくり  
→労働時間、休暇制度等で子育てしやすい社会システム
- 「8時に家族そろって夕食」はみんなしたいけど、したいと思っただけではない

子育ての仲間づくりができる機会や場所をつくり、仲間づくりを促すヒトを配置する

- 親の支援や仲間づくりの支援→幼児を持つ親の学級の拡大。幼児を持つ親同士が気軽に遊びに行ける仲間作りができる場所づくり
- みずべなど、誰でも参加できるようにする→みずべの職員などによる仲間づくりの促進
- 子育てする親を孤立させず母親や父親の心にそったケアやサポート体制の充実(親の仲間作りやいつでも相談、休息できるケアやサポートをし、親が楽しく子育てできる)

子育て相談窓口や家庭訪問型子育て支援など子育て支援の体制をつくとともに、指導員を育て、保護者を教育する

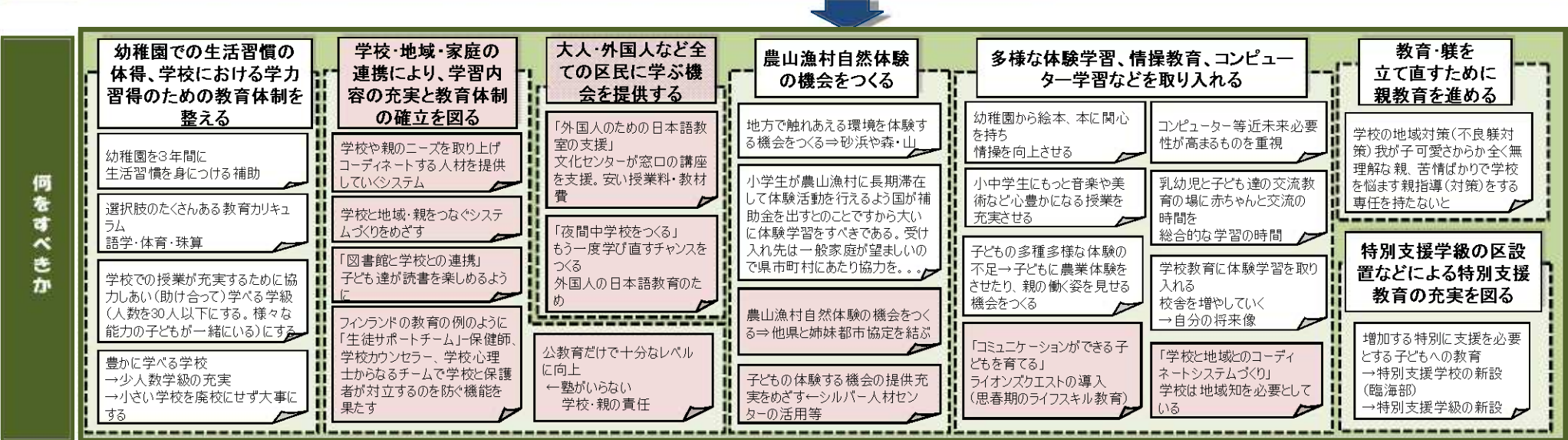
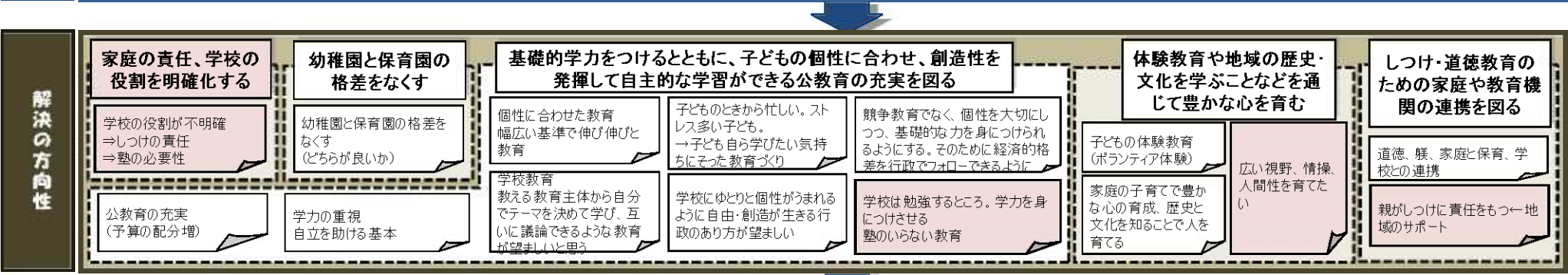
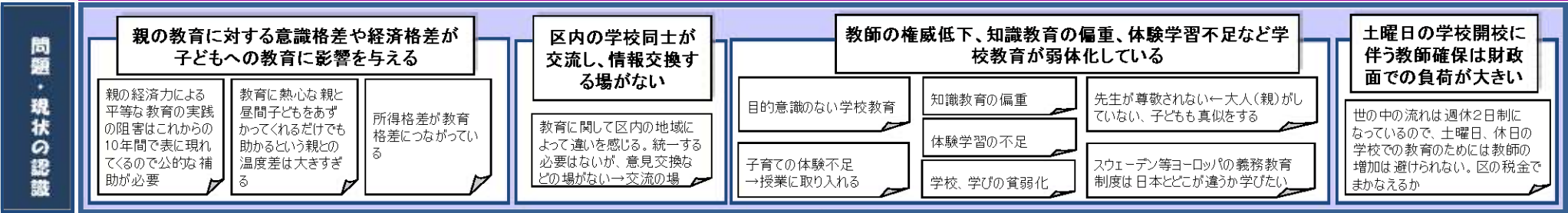
- お年寄りや子育て親子との交流の場をつくる  
・お年寄りの居場所  
・子育ての知恵をもらう
- 産前産後の訪問型子育て支援  
子育てで不安の解消  
心のケア、母親の心に添った子育て支援者の養成を実施
- 地域総合センターの建設  
子育て中、子ども、青少年、お年寄りの方々が一緒に交じって交流できる場(魔校の有効利用)
- 親(育児中)の相談窓口の不足→みずべ(子ども支援センター)などで気軽に安心して子どもと離れて親の悩みを相談できるようにする
- 指導員の研修  
保護者の教育
- 助産師、保健師がもっとやさしく、心にそった訪問をしてください。
- マタニティブルー、産後のうつ  
⇒育児支援者、ボランティア訪問
- 家庭訪問型子育て支援。子育てスタートの躓きはささいな事でも大きくなる要因となる。早期の支援は地域ボランティアで支援しよう
- 育児する親(特に母親)の負担が大きいため負担軽減(新生児訪問の第2子以降の実施  
育児学級や母親教室など保健所のサポート拡大)
- 子育て、育児支援の相談窓口の設置
- 子育て育児負担を軽減させるための対応  
育児相談充実  
保育施設の充実

既存施設のサービス拡大による保育機能の充実や保育施設の整備を進めるとともに、保育の質を担保する区民参加の仕組みをつくる

- 親の就業に関わりなく保育園の利用をもっと自由に安価にする
- 区民参加の施設運営システム⇒様々な施設ごとの区民参加、運営協議会の設置
- 共働き家庭の支援  
・認可保育園  
・学童クラブ  
↓  
必要数の整備  
区立直営含む
- 児童館の機能充実(赤ちゃんから高校生まで)  
プレイパーク設置
- 家庭で保育する親への支援が不足→保健所の一時預かりの安価での利用や男女共同参画センター、さくらんぼ保育園のような施設の充実
- 保育園での保育  
→「保育の質」を担保、向上させるための区民参加でのシステムを作る(文京区などの区民参加会議)子育て世代でも無理なく参加
- 保育所の不足  
→保育所を増やす。子ども園の充実(就業しているかどうかに関わらずみな必要と思う人が利用可能になる)

# 教育 - 「教育体制」「体験学習」

- 将来像**
- 塾に頼らない教育の推進
    - 子どもの学力を着実に伸ばす教育体制が確立されたまち
    - めまぐるしく変わる社会の波を生き抜く、知力・体力・創造力を育む教育が充実したまち
    - 地域の産業、技能など地域の教育力を活かした特色ある学校教育を実現したまち
  - 社会的弱者を阻害しない平等な教育を実践するまち
  - 子どものもつ能力を最大限に伸ばす早期教育の仕組みがあるまち
  - 学校開放や廃校利用などにより子どもも大人も学べる教育施設が充実したまち



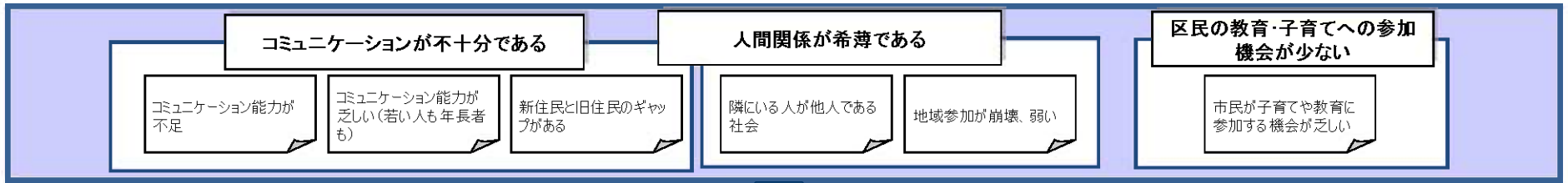


# 子育て・教育の基盤としての地域社会

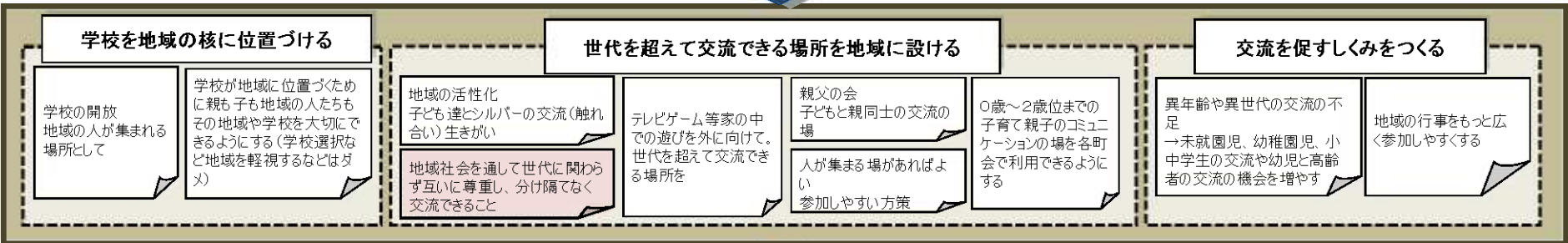
## 将来像

- 家庭・学校・地域が支え合い・協力しあう子育て社会
- やさしさや互いを愛する心のあるゆとりある社会
- 自然・生物への畏敬の念を育み、地域の人々とのふれあいがある農業体験の場があるまち

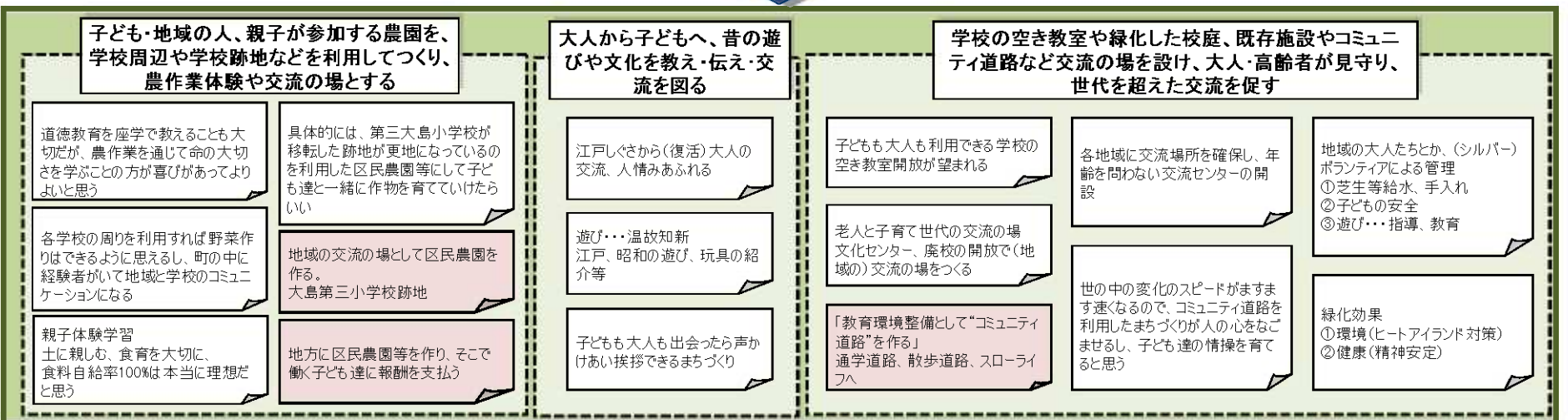
## 問題の認識



## 解決の方向性



## 何をすべきか



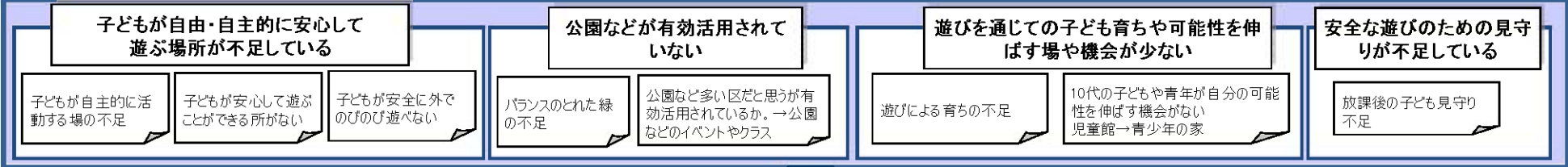


# 子どもの安全な遊び場・居場所の確保

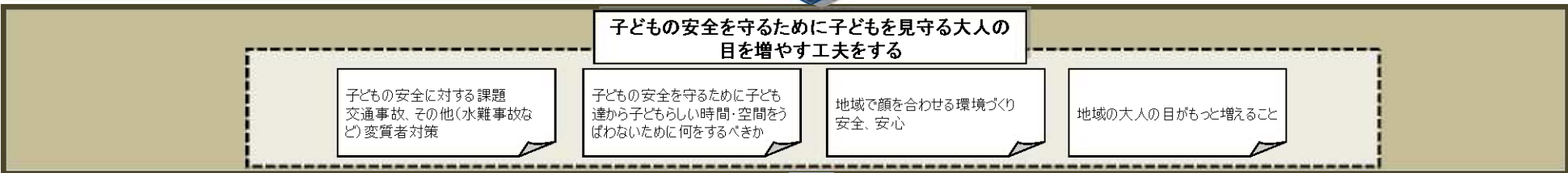
## 将来像

- 地域の人のとのふれあい・交流がある安心と安らぎの居場所があるまち
- 地域の大人が一体となって見守る安全な子どもの遊び環境
- 子どもが遊び・ふれあい・元気になる親しみのある水辺と豊かな緑のある公園がたくさんあるまち

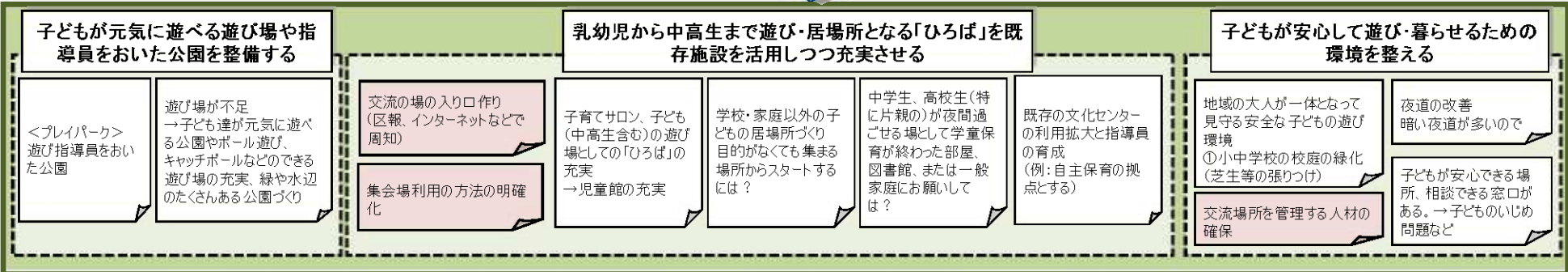
## 問題・現状の



## 解決の方向性



## 何をすべきか



## 行政

